

自然観察 NOW

野幌森林公園自然情報

平成26年度 NO.2

平成26年5月11日発行

北海道ボランティア・レンジャー協議会

5月の初め、美唄の宮島沼では、本州で越冬した約4万羽のマガムが、シベリアへの北帰行のため立ち寄り、“渡り”的の準備に余念がないと、新聞やテレビが報じていました。

ここ野幌の森にも、樹々の芽吹きが始まり、春の花々が咲きだす林の中に、南方から野鳥たちが次々と渡って来る季節になりました。森のあちこちでは、野鳥たちが繁殖のパートナーを見つけるためのさえずりの声が響き渡っています。ウグイスの初音が聞かれました。やがてオオジシギのなわばり宣言も聞こえ、オオルリやキビタキの艶やかな声が野幌の森に響く日も近いことでしょう。

さて、その野鳥の声を聞いていると、この鳥たちはなぜわざわざ野幌の森に渡って来るのだろう?と、私はしみじみ不思議は気持ちになります。

そこで、今回は鳥の「渡りの不思議」について紹介します。

鳥の渡りの不思議

Q “渡り”とはなんだろう?

“渡り”とは、季節の変化にともない繁殖地と越冬地(越夏地)を年に一往復する季節的移動をいう。”渡り鳥”には、「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」「留鳥」「漂鳥」がある。

「夏鳥」とは、繁殖するために日本にやってくる渡り鳥のこと。春に渡って来て夏を過ごし、秋南方へ渡って越冬すること。「冬鳥」とは、越冬するために日本にやってくる渡り鳥のこと。秋に渡って来て冬を過ごし、春に北方へ渡って繁殖する鳥のことをいう。春、野幌の森に渡って来る鳥は「夏鳥」。

Q 鳥たちは、何のために”渡り”をするのだろうか?

それは、本能に記録された“回帰願望”的といふ。

①季節ごとに変わる環境の中で、食べ物が減少することの対処のため。つまり、食べ物を十分に確保するために移動する。②繁殖と子育てのため。「繁殖期」と「非繁殖期」とで生育地を変えるため。③周年同じ場所にいるより、繁殖率を高めたり、死亡率をより低くなるようにするため。このように鳥は進化したと言われる。

Q 渡り鳥は、渡るためにどのようにして方角を知るのだろうか?

- ①「体内時計」と「太陽コンパス」(太陽の位置から)で方角を知る。これは、昼間に渡る鳥。
- ②「星座」によって方角を知る。これは、夜間に渡る鳥。(例)オオルリなど。
- ③「地磁気」によって方角を知る。(例)ハト
- ④陸地を普段から記憶をしていて方角を知る。これは、昼間に渡る鳥。
- ⑤これらを複数組み合わせて使う鳥もいるという。

Q なぜ「夏鳥」は、春に日本にやって来るのか?

繁殖・子育てのため。子育てのためには、ヒナにたくさんのエサを与えなければならない。この季節は、ヒナに与えるためのエサの量がこの季節に増えるから。春には、植物の若葉が茂り、その植物にはそれを食べる昆虫がたくさん発生する。エサは昆虫だけでなく、ヘビやカエルなどもこの時期に大量に生まれるから。

以上、鳥の「渡りの不思議」について調べるうちにわかったこと、それは、鳥たちの”渡り”が自分のエサを確保するための目的ばかりでなく、繁殖のために相手を見つけ、子育てをして自分の子孫を残すためにする、命がけの”渡り”であることであった。野幌の森にやって来る”夏鳥”を観る時、さえずりに耳を傾ける時に、そんな思いを感じて接してほしいものである。

野幌の森の春の野鳥たち（その2）

- オオジシギ（大鳴） シギ科 北海道（夏鳥） ※本州中部以北の高原で局所的（夏鳥・旅鳥）。
日本のみで繁殖する鳥で、派手なディスプレイをするシギ。越冬地はオーストラリア東部。北海道から9000キロ離れたオーストラリアからわざわざ繁殖にやって来る。別名、カミナリシギ（雷鳴）と呼ばれる。雄雌とも全体的に茶褐色や黒褐色などの細かい模様。
(鳴き声) “地鳴き”は「シェッジャー」「ジー」。“さえずり”は「ジッジッ ズビヤークズビヤーク」と鳴きながら上昇し、ある高さに達すると尾羽を広げて「ザザザ」という騒々しい風切音をたてながら急降下する。これは縄張りを誇示する行動。繁殖期の雄はこのディスプレイを昼夜営巣地です。

(名前の由来) 一番大きいジシギ類から。「ジ」は「地」（田んぼ）の意味。

- クロツグミ（黒鶲） ヒタキ科 北海道（夏鳥） ※九州以北（夏鳥）。

美声で、巧みな“さえずり”をする“朝のコーラス”的主役。

その声から“初夏のフルート奏者”と呼ばれる。

雄は頭部から上面、胸が黒く、胸から下面の白く脇腹などに黒い斑がある。（鳴き声）“地鳴き”は「シー」とか「ツイー」など地域によりさまざま。“さえずり”は「キヨコキヨコキヨコ、ツイー、チョロイチョロイチョロイ」などと複雑で、最後に「ツイー」を入れて、よくさえずる。（名前の由来）雄の体全体が黒い色が特徴のツグミの仲間なので。他の鳥の“さえずり”を取り入れて真似をする。雌もさえずることがある。



野幌の森の春の花たち（その2）

- ニリンソウ（二輪草） キンポウゲ科 花の色：白。 北海道・全国に分布。

春の代表的な花。白い花の絨毯（じゅうたん）が春の野を彩る。花は甲虫仲間によく知られた”デートスポット”。昔から春の山菜として、“おしたし”などにして食べられてきた。別名はフクベラ。“フクベ”は蕾の形から“ひょうたん”的意味で、“ラ”は「菜」の転化したもの。

(名前の由来) 1本の茎に通常二輪の花をつけるから。白い花は花びらではなく“がく片”で、がく片は元をたどれば葉っぱである。一輪の花もあるし、三輪の花が咲くものもある。

キンポウゲ科の仲間で猛毒のトリカブトの仲間と葉が非常に似ているので、注意が必要。この仲間はほとんどが有毒で、食べられるのは、ニリンソウとエゾノリュウキンカのみ。この花は、太陽を追ってゆっくりと西に向きを変えていく。アリが種子を運んで散布する。

花（がく片）が緑色をもったものを「ミドリニリンソウ」（緑二輪草）という。

- マイヅルソウ（舞鶴草） ユリ科 花の色：白。

全国の山地に分布。海外では、東シベリア、北アメリカの太平洋側にも分布する。

群落をなす艶やかなハート型の葉、花は“コンペイトウ”的にかわいい。

(名前の由来) 2枚の葉のハート形の独特な形と葉脈の曲がり方を、翼を左右に広げて空を舞う鶴に見立てて付けられた名前。地下茎で盛んに広がる多年草。地下でつながった地上部はすべて同じ株である。葉の大きさは、地域によって大きく変化し、北日本から南西日本へ行くにしたがい、葉が小さくなる傾向がある。果実は模様が変化していき、秋には真っ赤な実になる。



★6月の観察会

☆「森の新緑観察会」6月8日（日）10:00～12:30（集合：野幌ふれあい交流館）

☆「北広島レクの森観察会」6月22日（日）10:00～12:30（集合：北広島レクの森入口駐車場）